



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

6

No.562



まちひと百景

放牧が始まる

今年も町内酪農家より158頭のホルスタインが、風車群立ち並ぶ上平共同利用模範牧場に放牧された。潮風でミネラル分を豊富に含む牧草を食べて、200kg以上も大きく育ち、10月中旬の里帰りを待つ。

- 第37回緑ヶ丘公園桜祭り…2
- カレイ漁が絶好調…3
- 春の総合演習…4
- チャレンジデー2008&クリーンアップ日本海…5
- フラワースマイル事業で環境美化…6
- まなびの情報…7
- 健康情報…8
- 住まいる情報…10
- ちびっこギャラリー…12

まちの人口

人口/3,851人 (男/1,809人:女/2,042人)
世帯数/1,683世帯 (5月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

第37回 緑ヶ丘公園桜祭り

花より団子 葉桜を楽しむ

5月11日(日)午前11時、開演の花火が鳴り響き、第37回古丹別緑ヶ丘公園桜祭りが行われた。緑ヶ丘公園は、エゾヤマザクラやソメイヨシノなどが立ち並ぶ道北随一の名所と言われているが、今年は2週間ほど早く桜が満開となり、この日は、ほとんどが葉桜となっていた。それでも会場には、家族連れや職場の仲間、老人クラブ仲間など約1,000人が集まり、焼き台コンロを囲んでジンギスカンや味噌おでん、そば、ラーメン、焼き鳥など、花より団子の楽しい祭りを満喫していた。

ステージでは、苫前鱗萃会によるYOSAKOIソーラン踊りや歌手のいずみ恵子さんが当町をイメージした「風かおるまち」「ロマンチックロード」を披露するなど歌と踊りで会場は盛り上がりを見せていた。午後から始まったカラオケ大会では、森町長や飛び入り参加者もあり、カラオケも最高潮を迎えた。また、出展コーナーでは、商工会女性部や古丹別婦人会、各種商店などがたこ焼き、ゆうゆうのぬいぐるみ、陶芸、行者ニンニクなどを格安で販売し、お祭りを盛り上げていた。



2週間前には満開を迎えていた



苫前鱗萃会によるYOSAKOIソーラン踊り



葉桜の中、祭りを楽しむ来場者

一次産業を学ぶ

町内小学校5年生が田植え体験に奮闘



5月22日(木)古丹別小学校5年生、23日(金)苫前小学校5年生が花井秀昭さん(岩見)の水田で田植えの体験授業を行った。これは、例年行っている「学社融合事業」の一環で、児童らは、裸足になって元気に田植えを体験した。この日は、例年になく寒い日となったが、初めてとは思えないほど上手に植え付ける児童もあり、最初は寒そうな様子であったが、次第に楽しそうな笑顔に変わっていった。張り切りすぎて泥だらけになり、花井さん宅のシャワーを借りる一幕も。作業を終えた児童らは、特別にトラクターへ乗車させてもらい、田植え機による田植え体験も行った。

男子児童のひとり「今は機械だけど、昔は全部手で植えていたので大変だったと思う」と感想を述べていた。

普段乗ることのできないトラクターに乗車できたことが、この日最大の収穫となったようである。授業の終わりに、女子児童のひとは「初めて田植えをした。大きく育てお米ができるのが楽しみ」などの感想を述べたほか「何種類ぐらいの機械があるのか」「農薬の種類や量は、どのように決めるのか」などの質問もあり、講師の花井さんがわかりやすく説明していた。花井さんからは、「水田はお米を作るだけではありません。その他の使われ方を調べてください。」と宿題も出されていた。

今後は、7月に稲の育成調査、秋には稲刈り体験、11月頃には、お米について調べたことや1年間で体験したことなどを発表する予定である。



田植え機に乗る児童

まちの活性化に向けて検討

苫前町産業懇話会を開催

五月二十三日(金)役場大會議室にて町議会、農協、漁協苫前支所、商工会、観光協会、町内会連合会などの代表者二十人が出席して町産業懇話会が行われた。

協議内容は、「人口を増やす対策」「町の食材を生かした観光振興」「農水産物の付加価値を高める方法」「苫前・古丹別市街地通りの賑わい対策」などが協議された。その中で、マリナビジョンの取組状況が話され、「産業まつり」を八月中旬から下旬にかけて開催したい旨などが話された。これは、マリナビジョン事務局の町農林水産課と漁協が農協に開催可能時期について調整していたもので、実現すると、とままの特産物を宣伝できる場が設けられることになる。

また、「おいしい」と評判の苫前産米を少量のパック詰め販売できないか、道の駅「風Wとままえ」前で観光協会が主体となり苫前新鮮市場を実現したいなどが協議された。

今後、活性化に向けた懇話会を継続的に開催する予定である。



カレイ漁が絶好調

北るもい漁協苦前支所（年代喜美夫所長）では、五月の連休明けからカレイの刺網が好漁を迎えている。例年三月頃からカレイ網がスタートするが、今年はトドが多く刺網を控えていた。

ゴールデンウィーク明けからは、好漁が続く網数を増やしたい漁業者が増えていたが、人手が間に合わず網数を増やせないでいるのが現状という。

カレイ刺網好漁の要因として、マガレイが九割をしめており、その他の雑魚がほとんどかかっていないことだという。

苦前支所では、「この調子で行くと、昨年の水揚げを超え、一億円の大台に乗るのではないかと期待を寄せている。」



市場に次々にカレイ箱が搬入されていた

入牧・放牧はじまる



次々に上平共同利用模範牧場に入牧される

五月十五日（木）十六日（金）町内十六戸の酪農家より、百五十八頭のホルスタインが上平共同利用模範牧場に入牧された。入牧後は一週間ほど牛舎周辺で慣らし放牧される。

また、二十二日（木）には、牧場内の頂上付近で、一頭ずつ体重測定が行われ、本格的な放牧が始まった。

日本海を一望できる約三百ヘクタールの広大な草原と三十九基の風車群がそびえ立つ牧場内で、優しい潮風を受けながら十月中旬の里帰りまで放牧される。里帰りの頃には、二百キロ以上も体重を増やすという。

ウォーキングは健康の源

五月二十二日（木）町社会福祉協議会（濱本哲也会長）では、観光資源の目玉でもある上平ウインドファームの風車の丘公園内に風車ウォーキング用の大型看板を設置した。

看板設置は、風車ウォーキングの元祖的存在の白府義雄さん（上平）が看板費用を同協議会に寄付し、材料は、留萌地区間伐材生産加工協同組合（内田靖生代表）が無償提供した。看板製作は協和建設（株）が行い、文字入れを同協議会職員が手がけた。

コースは、日本海に沈む絶景の夕陽を望むことができる時計回りの四・八キロ。所要時間は、おおよそ一時間。風車群を縫うように自分のペースでゆっくり歩き、所々で日本海に浮かぶ天売島、焼尻島、時には利尻島を眺めることができる。

白府さんは「歩きながら癒しを感じる事ができる最高のコース。是非、一度歩いてほしい」と満足げに話していた。



大型看板の前で、風車ウォーキングコースをPRする白府さん

苦前の昔々の実話集

「てんてまり」を寄贈
当町出身の作家海手毬さん

当町出身の海手毬さん（札幌在住）がこのほど「てんてまり」第二号を自費出版し、町へ二百四十冊寄贈してくれた。

ノンフィクションで、主な登場人物は、オジジヤオババ、スミおばちゃんのほか、てまりのお友達として、現在も当町に住んでいる同級生などが実名で登場しており、当時の街並みや遊び、人情などが素直に描かれている作品である。

この「てんてまり」第二号（A5版）をとままえ温泉ふわつと、町郷土資料館、町公民館で販売している。一冊千円（税込）



左が「てんてまり」第二号集、右は一号集

苦前商業高校

専門学校講師を招き
職業意識を高める

五月七日（水）苦前商業高等学校（金濱茂校長）で、職業理解を高めて、将来の進路を考えるための選択肢を増やし、将来への目標意識を高めることを目的に「職業を知るガイダンス」を初めて試みた。

職業分野は、ゲームクリエイター、システムエンジニア、介護福祉、保育士、医療事務、自動車整備士、ファッションデザイナー、調理師、インテリアデザイナーなど十二分野を設け、全学年の生徒が興味のある分野ふたつを選択し、各四十分づつガイダンスを受けた。理美容分野では、「あがれただけでは無理。目標を持つこと。社員として会社に利益をもたらすことのできるよう努力することも重要である」と話していた。



働くことについて、基本的な考え方を学ぶ生徒

北留萌消防組合 苫前消防団

～春の総合演習～



機敏な動きと本番さながらの模擬火災訓練を行った各地区の消防団員



5月25日（日）午前10時から、平成20年度の苫前町消防団（小倉哲志団長）の春の総合演習が町公民館駐車場で執り行われた。式には約30人の来賓が参列し、苫前、古丹別、力昼の各分団員57人が総合演習を行った。

瀬川副団長の開式宣言から始まり、服装点検、閲団、機械器具点検に引き続き、訓練礼式が行われ、古丹別分団の石川団員、成田団員、大川団員によるポンプ操法が行われた。時折小雨が降る中、号令とともに歯切れの良い団員の動きは、日頃の訓練の成果を十分に発揮していた。

その後、萌州建設株式会社苫前支店の二階職員休憩室出火を想定し、模擬火災訓練が行われた。市街地には消防車と救急車のサイレンの音が鳴り響き、模擬火災現場に緊張が走った。

訓練終了後のあいさつで、森町長は「日頃の成果が発揮され、機敏ですばらしい訓練であった。住民の尊い生命や貴重な財産を火災から守るため、今後も努力してほしい」と述べた。町民の皆様も協力して、火災・災害のないまちづくりに努めましょう。

青空交通安全教室

五月一日（木）古丹別保育所（川森のり子所長）で、青空交通安全教室が行われ、園児四十六人が横断歩道の渡り方を学んだ。川森所長が「交通事故に遭わないように横断歩道の渡り方を勉強しましょう」とあいさつ。

鈴木古丹別駐在所所長の「信号機の青、黄、赤の時どうしますか？」の問いに、園児は大きな声で「青は進め、黄色は注意して止まれ、赤は止まれ」と応えていた。この後、特設の信号機四台が設置された園庭で、年長組から順番に横断する練習を学んでいた。



横断歩道の渡り方を学んだ園児

「文芸」

苫前町文芸を語る会

（短歌）

指先に血を滲ませて乾鯨むしるお八つに子等静まりぬ
押し寄せる大波小波がざわめいて白い貝殻忘れ去るなり
古丹別 木幡とく子

幼子が乳房まさぐる感覚を夢まどろみて涙がにじむ
家計簿も三日書かねば忘れたり心に残るカタクリの花
古丹別 大矢根亮子

春の陽はシャワーのやうにやさしくて吾が手の平にすい込む如く
精神の酸素吸入出来ぬまま命のきしむ音聞こえたり
古丹別 桑 風

（俳句）

登り行く 桜並木や ダムの道
古丹別 桑 風

葉刈する 刈葉に青き 一位の寔
古丹別 林 千代美

園児等の 声はずむなり 五月晴れ
古丹別 林 千代美

川柳

米寿過ぎ これから運は 宝くじ
古丹別 運上 吉雄

ダイエット 画面の菓子で お茶と飲み
苫前 小島 信子

無事故への 願いを込めた 安全旗
苫前 斎数 範章

線引きは どの辺長寿と 云う証し
苫前 関 武

散る花に 己重ねて 見てる老い
苫前 鎌田 信夫

チャレンジデー2008 & クリーンアップ日本海

町民の皆様のご理解とご協力を頂いたチャレンジデー2008も無事終了しました。ご協力ありがとうございました。

チャレンジデーは、毎年5月の最終水曜日の午前0時から午後9時までの間に15分間以上の運動を行った人の参加率を競い合う全住民参加型スポーツイベントです。今年で6年目となり、これまでの成績は、1勝4敗。

今年は、苫前町が参加率74.6%（参加者数2,911人）今年の実績相手の宮崎県諸塚村が70.4%（参加者数1,518人）となり、これで2度目の勝利を収めることができました。

スペシャルチャレンジの風車の町対決である岩手県葛巻町とは5回目の対決となり、参加率73.1%（参加者数5,847人）で、接戦のすえ勝利。対戦成績を3勝2敗としました。

また、この日は「クリーンアップ日本海」を行い、力昼海岸から豊浦海岸まで、各町内会や各種団体、企業等から約150人が参加して、海岸線約17kmの清掃に汗を流しました。このボランティア清掃も15分間以上の運動を行ったことになり、参加率を上げる一要因となりました。これをきっかけに、意識して毎日15分間は、体を動かしましょう。健康第一！！



ラジオ体操にチャレンジ
(苫前地区)



長縄跳びにチャレンジ
(苫前中学校)



海岸清掃に汗を流す
(力昼海岸)

苫前卓球連盟 「ほくでんカップ第二十回 北海道ホープス大会」に出場 黒田侑里さん (古別小学校二年)が大活躍

五月十七日(土)小樽市総合体育館で行われた北海道ホープス卓球大会に苫前卓球連盟が出場した。

団体戦では、二回戦で新篠津卓球スポーツ少年団に敗戦したものの、パンピの部(小学一、二年生)に出場した、黒田さん(古小二年)は、一回戦、二回戦とも三〇で勝ち進み、三回戦に進出し、熱戦を繰り広げたが惜敗した。

黒田さんは、ベスト八に入り全国出場権を得たものの、「この実力のままで全国大会に出場したくない」とこの全国大会出場を見送った。

伊藤優監督は「本人がもつと実力をつけてからと意気込んでいる。今後が楽しみな選手」とエールを送る。



次回大会に向け練習に励んでいる
黒田侑里さん(古小一年生)

第四十五回留萌管内 少年東西対抗剣道大会 第三十五回留萌管内 少年少女個人選手権大会

五月二十五日(日)町スポーツセンターで、選手、父母ら約三百人が集まり、剣道大会が開催された。

選手は、百二十一人が出場し、小学校二年生以下の部、三、四、五、六年生の部に分かれ、個人戦を行った。

苫前剣道連盟(三上敏行会長)から、五、六年生の部に出場した、小澤悠哉くん(古丹別小学校六年生)が三位に入賞を果たした。

東西対抗戦(苫前以北を西軍、小平以南を東軍)では、西軍が勝ち、これまでの成績を十九勝十五敗八分けとしている。

個人戦、東西対抗戦ともに会場内は、技が決まるたびに一喜一憂していた。



熱戦が繰り広げられた剣道大会

町軟式野球連盟が 三二野球教室を開催

五月十七日(土)町軟式野球連盟(内田靖生会長)が、苫前ファイターズと古丹別サンダーズの野球少年団員を対象に、「三二野球教室」を行った。

当日は、九時から両チームの練習試合を行い、その試合内容の反省点を踏まえながら実践を交えて指導を行った。

講師は、同連盟の審判員有資格者が行い、ストライクゾーンや「ピッチャーボーク」「ベイスランニング」などについて指導していた。

六月、七月になると毎週土日に数多くの試合が予定されている。父母らは、毎週参観日のように我が子について走り回り、声をかけながら応援する日々を過ごすことになる。



ストライクゾーンなどを学ぶ
両チームの少年団員

フラワースマイル事業で環境美化

180人が参加してマリーゴールド・ペゴニアなど植える



五月二十四日(土)午前十時から苦前地区・古丹別地区一斉に「フラワースマイル事業」が行われた。

主催は、苦前町コミュニティ運動推進協議会(工藤博朋会長)で、両地区合わせると百八十人の親子や老人クラブ会員などが、異世代交流を通しながらさわやかな汗を流した。

苦前地区では、町郷土資料館前に六十五人が集まり、工藤会長のあいさつに続き、フラワーマスターから花の移植方法を学び、さっそく資料館前のプランターや苦前小学校前の「古代ロマンロード」の雑草取り作業を行い、その後、マリーゴールドやインパチエンス、ペチュニアなどの花植え作業に汗を流した。

また、古丹別地区でも、百十五人が集まり、町コミュニティ運動推進協議会堀治副会長のあいさつに続き、町商工会女性部員が移植作業のデモンストレーションを行った後、公民館の周辺や西二条線通りにペゴニアやペチュニアなどを丁寧に植えていた。

おじいちゃんやおばあちゃん、お父さん、お母さんと楽しく、ふれあいながら、花を植える子どもたちの笑顔は、何よりも環境美化運動になっていた。

苦前中学校生徒会 緑の羽根募金を持参

五月二十二日(木)苦前中学校(高清水照二校長)の生徒会長小林竜馬くん(三年)と副会長の檜谷紗耶香さん(三年)が町長室を訪れ、「大切に使用して下さい」と森町長に募金を手渡した。

森町長は「今年は、北海道洞爺湖サミットが開催されます。生徒会の皆さんが、心をこめて募金して頂き大変うれしく思います。皆さんの森林保護などの気持ちを大切にして活用したいと思えます」と感謝のことばを述べた。

この後、小林くんと檜谷さんは、森町長と北海道の自然や苦前中学校の様子などについて歓談していた。



森町長に募金箱を手渡す

小林会長(右) 檜谷副会長(左)

感謝申しあげます 地域社会貢献事業

(有)エンジニア商会

4月26日(土)エンジニア商会(本間正城代表)が地域社会貢献事業の一環として、古丹別中学校「ブルペンマウンド整備(1塁側、3塁側)」を行いました。



ブルペン整備に汗を流す
本間社長(左)と父母会員

(株)東北建設

5月7日、8日(株)東北建設(菊池浩代表)の職員8人が町野球場の芝整備やラインポールの塗装などを行いました。



外野の芝整備に汗を流す
職員の皆さん

苦前建設協会

5月24日(土)苦前建設協会がとままえ温泉ふわっと入り口に、マリーゴールドやペチュニア、ペゴニアなどをプランターに植えて、美化活動を行いました。



ふわっと前駐車禁止エリアに
並べられた花壇

橋場産業(株)橋緑会

5月30日(金)橋場産業(株)橋緑会(東谷敏夫会長)が国道232号の三豊地区と古丹別川水辺の楽校にエゾヤマ桜各20本を植樹しました。また、5月17日、18日には、苦前商業高校のグラウンド整備を行いました。



午前8時から移植作業に
汗を流した職員の皆さん